

# 企業インタビュー 株式会社ディスコ

学生は大学生生活で多くのことを経験し、学び、いずれは社会に出る。しかし、自分が将来、一人の社会人として働いている姿を想像できる学生は少ないのではないだろうか。また、就職活動に望むためには普段からどんな準備をしていけば良いのだろうか。学生が関心のある就職について我々は株式会社ディスコ新卒メディア開発部の佐川直哉さんに話を伺った。



▲取材に応じていただいた佐川直哉さん

普段実行されている、仮説を立てて検証し、答えを導き出す力です。

**Q**面接の時の心構え、注意点を教えてください。

**A**面接というものはこれまでの自分を紹介すると思われがちですが、その認識は大きな誤りです。面接で求められるのは、応募者の志望度の高さと企業風土との適合性です。つまり将来その企業で活躍できる人材であるかをアピールするためには、未来の自分について紹介しなければならぬのです。自分はこの企業でこんなことを実現したい、こんな自分になりたい、自分ならさらなる企業の発展に寄与できるというようなことをアピールする場面なので、とはいえ今の自分を客観的に評価できていなければ未来を語れないので、今までの自分について振り返り、棚卸をしてみる必要は少なからずあります。また、印象とは自分の思い込みではなく相手の感じ方ですから、仮に自分が面接官となったらと想定し、この人となら一緒に働きたいと思えるような印象を与えられているかチェックしてみましょう。必ずしも明るく、話しやすい人だけが印象が良いのではなく、口下手でも嘘をつかず、誠実な人もまたとても好印象なのです。自分に自信を持ち、なぜ理科大学を選び、何を学んで、生かしたいと思ったのかを日ごろから考え整理しておきましょう。

**Q**自分にあつたインターンシップの選び方を教えてください。

**A**専攻を生かしたインターンシップを募集している研究室やゼミで募集しているものに参加してはいかがでしょう。実施期間や実施内容などさまざまなので、自分の学業に支障のないよう、準備しましょう。また、全く専攻とは関係なくても興味のあるインターンシップに参加することも別の選別の利点は実際に企業の雰囲気を知り、職場の人と話すことが多いかもしれませぬ。インターンシップを通して、コミュニケーション能力の向上にも役立てられます。インターンシップは大学1、2年生も参加できるので積極的に参加をおすすめします。

**Q**大学生活で取り組むべきことはありますか。

**A**アルバイトやサークルなど学業以外に経験を積むことはもちろん大切ですが、常に変化を求めてほしいですね。「継続は力なり」とありますが、漫然と過ごすのではなくより良い方法や効率化を追求していただきたいと思います。例えばアルバイト先でも学生目線ではなくその企業の経営に携われる社員視点を持つて働いてみるなどです。もちろん皆さんにとっては学問、研究が本分なので、それに最も力を入れてもらいたいです。それ以外の時間になぜ自分は何をやるのか、そこから何をやるのか、何をしたいのかなど常に考えながら一生懸命取り組んでほしいです。

**Q**最後に学生に一言お願いします。

**A**大学3年生だけでなく、1、2年生の皆さんにも就職について考えてもらいたいです。そして就職をネガティブに捉えず、社会で活躍する自分をイメージして、価値観を持つ人と話すことはこれからの財産に必ずなります。つまり人間の育成に役立つのです。

**Q**社会に出て必要な能力は何ですか。

**A**一つはやはりタイムマネジメント能力です。企業社会では限られた時間の中で最大の成果を出せるよう常に取り組んでいるからです。もう一つはコミュニケーション能力です。仕事をすすめる上で職場の同僚や取引先など、様々な方との利害関係を一致させ、仕事の成果の最大化を図る必要があります。社会では必ずしも自分のやりたい仕事や得意な仕事ができるとは限りませぬ。どんな状況でも、互いに良いところを引き出し合えるような、コミュニケーション能力が必要なのです。

**Q**最後に学生に一言お願いします。

**A**大学3年生だけでなく、1、2年生の皆さんにも就職について考えてもらいたいです。そして就職をネガティブに捉えず、社会で活躍する自分をイメージして、価値観を持つ人と話すことはこれからの財産に必ずなります。つまり人間の育成に役立つのです。

**Q**東ハトに入社した理由を教えてください。

**A**就職活動をする時点で、食品の商品開発に携わりたいという目標がありました。その中で製菓会社を選んだのは、自分の創った商品がコンビニ、スーパーなどの皆様が頻りに足を運ぶ場所に置かれる機会が多く、多くの人に見てもらえると多分いいですね。また、東ハトという会社は他の製菓会社よりもユニークな商品を作っているイメージがありました。私の人と違っていた仕事かしてみたいという気持ちと会社の方針が合致しているかと思いき、この会社を選びました。

**Q**研究職には大学院卒の人だけでなく、学部卒でも就けるものなのでしょうか。

**A**業界や研究内容によると思いますが学部卒でも研究職に就くことができると思います。私は学部卒ですが幸運にも入社して2年目で研究職に就くことができました。私は会社に入ってから当初から商品開発の部署に所属していましたが、実際

## OGインタビュー

～「暴君ハバネロ」の開発者、篠原奈央さん～

就職活動を控えている現3年生及び修士1年生は次第に働くことについて深く考える時期になっているのではないだろうか。

2001年に本学の工学部第一部工業化学科を卒業した篠原奈央さんは、学部卒業後株式会社東ハトに入社し、入社3年目に誰かが一度は食べたことがあるだろう旨辛スナック菓子「暴君ハバネロ」の開発に携わったという。他にも、多くの東ハトの商品開発に携わっており、現在ではマーケティング本部の中央研究所に所属し、日々新しい商品を探求し続けている。今回はそんなお菓子開発の前線に活躍されている女性に話を伺った。

の業務は商品開発の仕事ではありませんでした。それでも商品開発の仕事をする時間を確保するために、当時の仕事をしつかりとこなした上で上司に商品開発をしたいという意向を伝え続けた。その結果、入社2年目で開発の仕事をするチャンスももらい今に至っています。会社では、明確な意思を持ち、その意思を具現化して仕事に励むことができる人に率先して新しいミッションを任せる傾向があります。採用や会社に入ってから業務を割り振る中で学歴は一つの指標になりますが、学歴だけで評価をして採用をしたり、その業務に就かせたりはしないと思います。

**Q**社会に出て苦労したことありましたか。

**A**コミュニケーションの取り方や仕事に対する考え方や学生の頃とは違った感覚で見なければならぬということが多くあることに驚いて対応に苦労しました。また、会社の独自のルールなどもありそれを理解して会社の雰囲気慣れるのには時間がかかり大変でした。

**Q**社会に出て喜びややりがいを感じるのどのような時ですか。

**A**学生のときにできなかった経験をたくさんできていくことだと思います。暴君ハバネロというお菓子の開発をきっかけにしてテレビ出演や雑誌の連載をする経験もさせていただきました。勉強は唐辛子でつながる仲間ができたことであつたり、商品開発の面で言えば、新しい商品を作る機械を購入しようとしてプレザンテーションを行い設備の導入をしたり、自分から立案した新しいお菓子を商品化したこともできました。日頃からたくさんの方と話をすると会話の深さや経験値が違ってくるのが面白いです。

**Q**最後に学生に一言お願いします。

**A**大学3年生だけでなく、1、2年生の皆さんにも就職について考えてもらいたいです。そして就職をネガティブに捉えず、社会で活躍する自分をイメージして、価値観を持つ人と話すことはこれからの財産に必ずなります。つまり人間の育成に役立つのです。

**Q**最後に学生に一言お願いします。

**A**大学3年生だけでなく、1、2年生の皆さんにも就職について考えてもらいたいです。そして就職をネガティブに捉えず、社会で活躍する自分をイメージして、価値観を持つ人と話すことはこれからの財産に必ずなります。つまり人間の育成に役立つのです。

**Q**最後に学生に一言お願いします。

**A**大学3年生だけでなく、1、2年生の皆さんにも就職について考えてもらいたいです。そして就職をネガティブに捉えず、社会で活躍する自分をイメージして、価値観を持つ人と話すことはこれからの財産に必ずなります。つまり人間の育成に役立つのです。

▲取材に応じていただいた篠原奈央さん